

◎ 寺子屋サロン(浄土真宗基礎講座) : 13時半～15時

原則毎月28日(28日が土・日に当たると場合は直前の金曜日)に、毎回「テーマ」を設けて、皆で座談する形式で開催しています。

10月28日(月) 本堂仏具のお磨きをします。

1月28日(火) 「終活を考える」

※12月は総追弔会(永代経法要)があるのでお休みします。

◎ テンブルモーニング : 毎月第1土曜日 7時～8時

朝のお寺でお掃除するだけの、のんびりした時間を持ちませんか？

◎ 死別の分かちあいの集い(予約・参加費不要) : 13時～15時

・伴侶 : 毎月第1土曜日 (11/2、12/7、1/4、2/1)

・自死 : 毎月最終土曜日 (11/30、12/28、1/25、2/29)

当事者の方々と僧侶(超覚寺住職)との分かちあいの集いです。

◎ にここカフェ : 毎月第1月曜日 13時30分～15時

お茶を片手に、談話や体操・脳トレ・ゲーム・レクリエーションなど、お楽しみ色々です。タオル・500mlの空ペットボトル・参加費300円をご持参ください。このカフェは「いきいきポイント」対象となりますので、振るってご参加ください。

◎ ひだまり対話(予約可) : 毎月第2火曜日 13時～16時

精神対話士(メンタルケアの専門家)との相談会で1対1の面談形式です。

日頃心の中に溜め込んでいるモヤモヤした気持ちを吐き出しませんか？

◎ 報告・連絡・“僧”談

超覚寺開基400周年記念法要は無事お勤めできました。これは、法要にお参りくださった御門徒の皆さんのおかげ...ではありません。ましてや私や坊守の手柄でもありません。全ては阿弥陀如来のおかげさま、そして阿弥陀如来の恩徳に粉骨碎身しても報いたいと願った我らの先達方が、この八丁堀の地の寺院をしっかりと護ってくださったおかげで、この節目の慶事を迎えることができたのです。今度は、我らが阿弥陀如来や先達方の恩徳に報いる番です。永代に渡って、仏教を浄土真宗を有縁や次代の人々に伝えていきましょう。

発行人 : 超覚寺住職 和田隆彦(釈隆恩) (*-*)人i~合掌

【八丁堀だより】



浄土真宗(真宗大谷派・東本願寺)



林鷲山

憶西院

超覚寺

RIN-O-ZAN OKU-ZEI-IN CHO-KAKU-JI

[since 仏暦2162, 西暦1619, 元和5]

〒730-0013 広島県広島市中区八丁堀 5-2

Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113

Mail : wada@namuamidabutsu.com

HP : http://www.namuamidabutsu.com

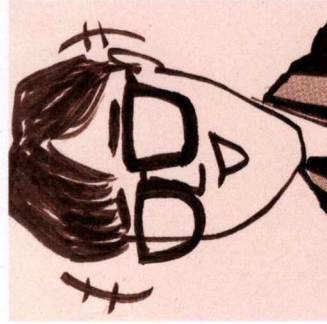
http://mytera.jp/tera/48chokakuji

超覚寺 冬の行事のお知らせ

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、
 ありがたく存じます。

さて、下記の通り法要・法座を勤修いたしますので、
 ご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。<(_ _)>

◎ 2019年 報恩講法要



11月9日 (土)

10時～ 勤行：住職

10時半～ 法話：小山興圓師

12時～ 御斎(おとき)

13時～ 市内住職出仕勤行

14時～ 法話：小山興圓師

今回の講師は、住職が学んだ大谷専修学院(真宗大谷派僧侶養成所)の同期でもある小山興圓師(愛知県安城市本證寺住職)です。親鸞聖人御絵伝の絵解き法話をご披露くださいます。

◎ 超覚寺門徒 2019年 総追弔会 兼 永代経法要

12月1日 (日) 10時～ 勤行

今年最後の法要です。この1年間を無事に過ごせたことを感謝すると共に、
 阿彌陀様やご先祖様の仏徳を讃えます。有縁の方々はどうぞお参りください。

希望者がいらっしゃれば「帰敬式(ききようしき)」を勤めます。帰敬式とは、仏さまの教えを大切にし仏弟子として生きていくことを誓い、正式な法名をいただく「お髪
 剃り」の儀式です。受式を希望される方は11月20日までにお申し込みください。

法要後は終活セミナー、午後2時から落語会を開きますので、どうぞ万障
 繰り合わせてご参加ください。

◇ “寺”後報告

・ 9月21・22日 (土・日) 【超覚寺開基400周年記念法要】

当日は雨天の予報だったにもかかわらず、2日間でのべ90名以上の方がお参りくださいました。おかげさまで記念法要を無事厳修することができました。今回初めてお参りくださった方も少なくなく、新しい御縁を慶ばしく思いました。御供だけを持参くださる方も少なくなかったのですが、そのような方々もお参りしたいと思うような法要・法座を考えていかねばと思います。誰もが初めは「にわか真宗門徒」です。気後れなどせず気軽に参りしてほしいです。

今回はせつかく浄土真宗の11派から御講師が参集くださったので、ご法話やパフォーマンスを撮影していました。パソコンやスマホで「ユーチューブ 超覚寺」と検索いただければ、各々の動画が拝聴できますので、どうぞご利用ください。

先日、開基400周年の記念品を郵送しましたが、他に「超覚寺400年史」と「超覚寺オリジナル勤行本」を編纂中です。これらも完成次第ご門徒の皆さんにお送りいたします。また、その400年史を基に、お寺の由来版を制作し寺門の堀に設置する予定です。



◎ 2020年修正会法要

1月1日 (水・祝) 6時～、8時～、10時～、12時～、

一年の計は元旦にあり。「今年もお念仏の道を歩ませていただきます」と阿彌陀様に「ご挨拶申し上げよう。住職が約10分ほどの勤行・法話を勤めますので、新年のお墓参りの際に、どうぞ本堂までお参りください。

『門松や 冥土の旅の 一里塚 めでたくもあり めでたくもなし (一休宗純)』

◇ ペット墓に埋葬された方からのお手紙

『ペットと長く一緒に生活していると愛情が深まり、家族の一員となります。私が飼っていた愛犬は、犬好きで高齢な病身の母のために、妻が知り合いから譲って頂いた血統書付きのヨークシャーテリアでした。小型犬としては長寿命でしたが、16歳の時、動物病院入院時に突然死亡しました。家族一同と私は大変なショックを受けました。庭の片隅に遺体を埋めるのは忍び難かったので、動物病院から紹介された葬儀社に依頼し、遺体を荼毘にふして骨上げをし、読経など人間並みの葬儀を行ない、更に、阿弥陀様が安置されている納骨堂に納骨しました。ここでは年5・6回法要があり、その度に供養料を収めました。しかし、自宅から遠く、交通量の多い道路を自家用車で通うのが大変でした。このため、近隣で納骨できる場所を探したり、安心して永代供養する方法がないか、ネットで調べたりし、長い間、悩みました。

こんな或る日、ご住職にペットの慰霊碑を相談したところ、既に境内の一角にペットの遺体を埋葬していること、また、驚くことに犬畜生と忌み嫌われる動物のお墓が、超覚寺には江戸時代から有ったことで、超覚寺には昔から動物に対する慈愛の心があつたことを知って感動し、更に、数年後には墓碑を建立する予定があることをお聞きし救われる思いでした。その上、幸いなことに、建立されるまでの間、本堂内に骨壺を預かって頂くことになり、胸を撫で下ろしました。

待ち望んでいましたペットの墓碑が昨年建立されたので、今春、本堂内で預かって頂いていた骨壺からお骨を出し墓地に埋葬し、愛犬が大地に戻り安らかに自然界に還るように、ご住職にお勤めして頂きました。長年の懸案が叶い大変安堵しました。ありがとうございました。

石原匡《釈慈匡》拜

超覚寺のペット墓地は、菩提樹（お釈迦様が悟りを開かれた霊樹）の下に仕切りや個別の墓碑を設けずに、適宜お骨や遺体を埋葬しペットを自然に還します。ここは境内墓地参道横にあるため、お参りし易いです。ペットの供養を希望される方は、超覚寺門徒でなくても埋葬できます。

また、12月後半には「ペットロスになった方々の分かちあいの集い」を開く予定です。“一切衆生悉有仏性” あらゆる「いのち」に寄り添うお寺でありたいと思っております。

◎ 終活セミナー

～超・長寿時代 理想の生き方・老い方について考える～

12月1日（日）総追弔会后（10時過ぎ）～12時

あなたは自分自身に「もしも」のことがあった時、大切な人に何を残したいですか？ 今後について不安や悩みはありませんか？ 残しておきたいものや伝えておきたい想いを「かたち」にすることは、今だからできること。人生の棚卸しをすることで、これからの人生をより自分らしく生きる。それが『終活』です。

人生100年時代もこわくない！ 安心して自分らしく生きるため、お金や暮らし、介護や医療に関することなど今のうちに課題と向き合い、解決しながら、もっと前向きに、もっと気軽に、「老いへのそなえ」の第1歩を一緒に学びませんか。

今回も超覚寺門信徒の行政書士の岡村奈七江さんを招き、終活の「あれこれ」をお教えいただきます。なお、今回も昨年同様、堂内に棺を設置しますので、納棺体験もできます。より具体的に自分の「死」をイメージすることは、今をよりよく生きる活力になります。

◎ 第2回 八丁堀落語会 12月1日（日）14時～

例年、9月の秋季彼岸会に落語会を併催しておりましたが、開基400周年記念法要として法話大会を勤めましたので、今年は12月1日に、我らが馴染み広島タレント中島尚樹さん主催の落語会を招致することになりました。昨年も玄人はだしの落語を披露くださり、本堂が大爆笑の渦でした。

他には奥さまの井上恵津子さんや広島テレビの森アナウンサーも登壇予定です。終活セミナーと合わせてお越しください。



昨年第1回の様子です。